

八戸

八戸港の重要性学ぶ

八学大ゼミ生10人
コンテナヤード見学

八戸学院大学地域経営学部の横田将志講師のゼミ（国際関係論専攻）は5月25日、八戸市の八戸港八太郎2号埠頭（多目的国際物流ターミナル）のコンテナヤードを見学した。学生らは荷役作業を見たり、担当者の説明を聞いたりしながら、国際的な物流拠点としての八戸港について理解を深めた。

コンテナ港としての八戸港の機能やグローバル社会における同港の重要性について考えようと企画。管理者の県八戸港管理所とオペレーションを担う八戸港湾運送が協力した。

同日は、学生を指導する横田講師のほか、ゼミ所属の3年生4人と2年生6人

の計10人が参加。八戸港湾運送の担当者から説明を受けた。

2018年9月に拡張工事を終え、広さ8・5畝となった広大な敷地の中で、最大30・5トまでつり上げることができる「ガントリークレーン」を見学。コンテナの取扱量や運搬する貨物、輸送先などについて説明を受けた。その他、冷凍

コンテナの中に入り零下25度の世界も体感した。

3年生の沼村美舞さんは「普段近くを通過して大学に通っているけど、こんな場所があるんだと驚いた。冷凍コンテナは丸1日電源が入っていないだけでも1〜2度しか中の温度が上昇しないと聞き、性能の高さにも感心した」と話した。

（野上圭佑）



奥に見えるガントリークレーンについて説明を受ける学生ら